

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学部では、建学の精神である「行学一体、報恩感謝」に加え、経営学部の教育理念である「理論と実践」のもと新しい理論に基づく実践を重視し、企業経営を通じて社会に役立ち、自己実現できる人材の育成を目的としている。そのための教育研究上の目的は、①新しいマネジメント理論と実践を踏まえた教育研究、②産学連携による実践型の教育研究、③実習方式を積極的に取り入れた実践型の教育、④1つの専門領域に偏らない学際的な知識・技術をもった人材の育成に寄与する教育研究、⑤変化革新への対応能力や問題発見解決能力の向上を促す教育研究としている。それぞれの内容は経営学の本質から見て適切である。				
(2) 2018(平成30)年度に、大学の理念・目的を踏まえて本学部の目的の見直しを行い、関連性を確認した上で、2019(平成31)年3月に「人材の養成・教育研究上の目的」を設定し、現在に至っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
1-1経営	愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程 (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 本学部の目的は「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に明示されている。				
(2) 経営学部の人材の養成・教育研究上の目的を、「経営学部 履修要項」に記載するとともに、本学ウェブサイトに掲載することにより、教職員、学生、社会に対して周知・公表している。また、2023年には経営学部のウェブサイトを、デザイン・内容ともに改訂しても受験生や一般の方がより理解しやすいよう、端的に記載している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
1-1経営	愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程 (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)			
1-2経営	経営学部履修要項 (p.2 人材の養成・教育研究上の目的)			
1-3経営	教育理念【ウェブ】 (https://keiei.agu.ac.jp/faculty-guidance/)			
1-4経営	各種方針【ウェブ】 (https://keiei.agu.ac.jp/faculty-guidance/policy/#policy)			

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 自己点検・自己評価部会を開催している。なお2023年度は自己点検・自己評価部会(第1回)において、ディプロマポリシーで示した学習成果とその達成状況を確認するとともに、学修状況実態把握に関するアンケート結果に基づく教育活動の見直しについて議論した。さらに、入学前教育のあり方についても検討した。自己点検・自己評価部会(第2回)では、PROGテスト結果データをもとに教育活動の見直しについて議論し、これらの結果を将来にどのように活用すべきかということについて検討した。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
令和5年度 第1回自己点検・自己評価部会議事録				
令和5年度 第2回自己点検・自己評価部会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準2」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1)経営学部のディプロマ・ポリシーでは、学位授与にあたって修得すべき知識や技能を明示し、ウェブ及び履修要項で公表している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-1経営 ディプロマ・ポリシー				
4-2経営 経営学部履修要項(p.2 ディプロマ・ポリシー)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な連関性がありますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1)学部教育の内容について、カリキュラム・ポリシーにおいて具体的に述べるとともに、3つのコースを設置してそれらの教育概要を箇条書きにて記述し、ウェブ及び履修要項上で公表している。また、カリキュラム・ポリシーでは、授業科目の区分および形態について、主に講義形式により段階的に専門知識を身につけるための科目群としての基礎科目群および応用科目群、また、少人数で議論や発表をしながら専門知識や社会人としての基礎学力を養う演習科目・外国語科目群およびキャリア・デザイン科目群を設けていることを明示している。 (2)「人材の養成・教育研究上の目的」の中で学部の教育理念を明示し、それを受ける形でディプロマ・ポリシー、そしてさらにそれを受ける形でカリキュラム・ポリシーを定めることにより、教育課程の編成・実施方針と学位授与方針を連関させている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-2経営 経営学部履修要項(p.2 人材の育成・教育研究上の目的)				
4-2経営 経営学部履修要項(p.3-4 カリキュラム・ポリシー)				
4-2経営 経営学部履修要項(p.40-43 授業科目の概要)				
4-3経営 カリキュラム・ポリシー				
4-4経営 人材の育成・教育研究上の目的				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 学部生全般に求められる基礎的知識を身につける基礎科目群、専門的内容を主体的に学ぶことのできる3つのコースとコース選択科目群(応用科目群)、社会人としての考える力・コミュニケーション能力・情報処理能力を養う演習・外国語科目群、実習科目群及びキャリア・デザイン科目群を設けて、教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。				
(2) 学生の主体的学びを促進するため、必修科目は「経営入門」及び「基礎演習」だけとして、それ以外はすべて選択科目としている。選択科目は、段階的学びが可能となるように年次配当を行っている。特に社会人基礎力を身につけるために重要性の高い科目としての「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」及び「キャリア・デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」はクラス指定を行い、多くの学生が履修することを推奨している。				
(3) 経営学部の教育理念が「理論と実践」であることから、教育課程の編成を行う上でカリキュラムポリシーに基づき、経営の理論を学ぶ理論系科目と実践力を学ぶ実習系科目に区別している。そして、教育方法でも座学とアクティブ・ラーニングをバランスよく配置している。これらの体系を前提として、個々の授業科目については、科目担当者以外の教員によるシラバスチェックによって、カリキュラム・ポリシーと齟齬がないかの確認が行われている。				
(4) 卒業要件を、教養科目から36単位以上、専門科目から76単位以上、いずれかから16単位以上と規定している。専門科目では、1年次において「経営入門」を必修とすることで学部生の初年次教育を行うことに加えて、その他にも「初級簿記Ⅰ・Ⅱ」、「経営と情報Ⅰ・Ⅱ」及び「ビジネス情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を開講して履修を促し、2年次以降の専門教育へむけての初年次教育の充実を図っている。				
(5) キャリア・デザイン科目群では、初年次より「キャリア・デザインⅠ・Ⅱ」、2年次から3年次にかけて「キャリア・デザインⅢ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」を学生の習熟度別にクラス指定科目として開講している。また、TOEICを中心に英語力を身につける「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、外部団体が行う資格試験の合格者への単位認定を行う「基礎経営実務」、社会人を実体験する「インターンシップ」、海外文化と語学を学ぶ「海外体験演習」等、学生が社会的及び職業的自立を図るための必要な能力を育成する教育を行っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-2経営 経営学部履修要項(p.36-39 カリキュラムの特色)				
4-2経営 経営学部履修要項(p.40-43授業科目の概要)				
4-2経営 経営学部履修要項(p.49-50 カリキュラム・ツリー)				
4-2経営 経営学部履修要項(p.54-59 カリキュラム概要)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置（授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等）を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）は適切ですか。 また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。 （教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等）	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体（会議名・誰が）」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 単位の実質化に向けて、授業時間外の学習について履修要項及びシラバスにおいて授業科目別に明示すると同時に、履修登録は各セメスターにおいて28単位を上限とし、かつ各年次において44単位を上限として定めている。				
(2) シラバスでは、各授業科目の「テーマ」、「授業の概要」、「授業の到達目標」、「授業計画」（その準備の指示を含む）、「試験及び評価方法・基準」、「テキスト」、「参考書」、「参考URL」、「質問への対応方法」、「備考（その他）」を明示している。これらについては、各セメスター後に実施される学生による授業評価ならびにシラバスチェックにより改善が図られている。				
(3) シラバスの「授業計画」において、授業時間外学習及びそれに要する時間の目安を明示して、学生が主体的に授業に参加することを促している。また、授業内での小テストの実施や議論をする時間を設けるなど、学生の主体的な学びを促進している。また、所属教員の講義を研究授業という形式で授業参観し、FD部会で当該授業内容について議論することで、学生の主体的参加を促すノウハウの共有に努めている。				
(4) 教養科目、専門科目における基礎科目群の科目、外国語科目、キャリア・デザイン等の科目では、クラス指定を行うことで、40名前後の人数となるように工夫している。それ以外の専門科目の応用科目においても、特に実習科目では30名を上限として人数制限をかけている。また、毎年、履修登録の時期に学生向けのオリエンテーションを実施し、履修指導を行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-2経営 経営学部履修要項(p.8 単位制度)				
4-2経営 経営学部履修要項(p.32-34 単位認定制)				
4-5経営 愛知学院大学シラバス検索システム【ウェブ https://wcs.agu.ac.jp/campus/top.do 】				
4-6経営 2023年度春・秋学期経営学部「学生による授業アンケート」集計表				
4-15経営 第3回経営学部FD部会議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	
		(5)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するためにどのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6)	適切に学位授与を行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 単位認定は、単位制度の趣旨に基づいて、平素の学習状況と定期試験またはレポート試験によって適切に認定している。大学入学前に取得した外部団体の資格試験に関しても、入学時に申請することで単位認定が認められる。				
(2) 成績評価の客観性及び厳格性を担保するために、成績評価基準を定めて履修要項で周知し、保証人への成績通知を行っている。また、「AA」の成績評価は原則として履修登録者の上位20%までとすることを定めている。また、学部会では成績評価基準を確認する機会を設けている。				
(3) 卒業要件は、履修要項において、在籍期間全体での修得単位数128単位のほか、学部の授業科目群別の最低修得単位、及びコース別選択科目の最低修得単位等を明示して周知している。				
(4)				
(5) 卒業論文の作成については選択制を採っているが、論文字数を20,000字以上として、かつ2019年度から導入したルーブリックを活用することにより質保証に努めている。学位授与は、経営学部の議を経たうえ最終的には代表教授会で審議・決定しており、客観性及び厳格性を確保している。				
(6) 上記(1)～(3)および(5)を踏まえて、大学の建学の精神及び学部の教育理念に応じた、科目選択とコース制の設置、卒業要件単位数の設定、授業科目の特徴に応じた科目群の設定、定期試験またはレポートの実施等によって、卒業要件単位認定を厳格に行うことで、学位授与は適切に行われている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-2経営 経営学部履修要項 (p.8 単位制度)				
4-2経営 経営学部履修要項 (p.27-29 成績)				
4-2経営 経営学部履修要項 (p.30-31 進級・卒業)				
4-2経営 経営学部履修要項 (p.32-34 単位認定制)				
4-2経営 経営学部履修要項 (p.44-46 コース制)				
4-2経営 経営学部履修要項 (p.47-48 卒業論文作成の手引き)				
4-7経営 愛知学院大学の単位認定及び成績評価に関するガイドライン				
4-8経営 経営学部卒業論文ルーブリック				
4-16経営 令和5年度 第3回経営学部会議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。 (特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 卒業認定の学部会を毎年3月上旬に開催して、全学部生の修得単位の状況について学部内で情報共有を行っている。また、2019年からは、学位授与方針(ディプロマポリシー)に示した学習成果を多角的に測定するための指標を含む学部固有のアセスメントプランを設定し、活用している。				
(2) 学習成果の測定を目的とした指標として、卒業論文ルーブリック、資格の取得状況、コース指定科目の修得単位数およびGPAを設定し、2019年度から、それらの指標のチェックを経営学部自己点検・自己評価部会において定期的に行っている。そのほか、学修状況実態把握に関するアンケート調査も行い、これらの結果についても学部会においてその都度チェックしている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-8経営 経営学部卒業論文ルーブリック				
4-9経営 ディプロマ・ポリシーに示した学習成果の測定方法、達成目標及び達成状況(2020年度卒業生)(令和3年度第4回経営学部部会資料)				
4-10経営 経営学部アセスメントプラン				
4-11経営 令和5年度第1回経営学部自己点検・自己評価部会議事録				
4-12経営 令和3年度学修状況実態把握に関するアンケート				
4-13経営 令和5年度第8回経営学部会議事録				
4-14経営 令和2年度第11回経営学部会議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)学修状況実態把握に関するアンケート調査による測定のほか、2019年度より、経営学部自己点検・自己評価部会において、アセスメントプランに基づき、コース別の成績分布、修得単位数、GPAについての経年比較、TOEIC/IPテストの受験率と成績についての経年比較、資格(単位認定対象となる資格)の取得状況についての経年比較を行うことにより、教育課程及びその内容・方法が適切に機能しているかを点検・評価している。				
(2)経営学部会(第8回)にて、前年度に行われた「学修状況実態把握に関するアンケート調査」および今年度実施されたPROGテストの結果を確認し、それをもとに今後の学生の学修行動を促すための施策ならびに、カリキュラムの内容について議論した。これらの議論は、個々の授業科目の内容・方法に反映される。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-6経営 2023年度春・秋学期経営学部「学生による授業アンケート」集計表				
4-11経営 令和5年度第1回経営学部自己点検・自己評価部会議事録				
4-13経営 令和5年度第8回経営学部会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準4」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
<p>【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 経営学部経営学科として卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるのにふさわしい人を受け入れるよう、学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を設定している。アドミッション・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとともに、3つのポリシーとの整合性を考慮しながら同時に設定された。アドミッション・ポリシーは大学ホームページ及び入学試験要項において公表している。</p> <p>(2) 入試制度の多様化によって、多様な能力を持つ学生を受け入れている。たとえば、専門学科推薦によって各種資格の取得者を受け入れている。あるいは中期試験において数学と英語のいずれかを必須とすることで、論理的思考力のできる学生を受け入れている。入学前の学力水準・能力等の求める学生像については、アドミッション・ポリシーに示している。</p>				
<p>【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
平成28年度(2015年度)第4回経営学部会議事録				
平成28年度(2015年度)第9回経営学部会議事録				
平成28年度(2015年度)経営学部FD部会議事録				
入学試験要項				
愛知学院大学 教育理念・各種方針【ウェブ】				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

経営学部

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
<p>(1) 2名の広報委員と学部執行部を中心に、学部ホームページ、学部パンフレットなどを作成し、オープンキャンパスなどの機会を通じて、また入試センターを通して学生募集をしている。入学者選抜については、文部科学省高等教育局長通知の大学入学者選抜実施要項を遵守した上で、本学のアドミッション・ポリシーに基づき実施している。入学者選抜は、一般選抜(前期試験A・B・M、中期試験、後期試験、「共通テスト試験」利用試験Ⅰ期・Ⅱ期、共通テストプラス試験)、学校推薦型選抜(指定校制推薦入試、公募制推薦入試A・B、専門学科推薦入試、スポーツ推薦入試)、及び、総合型選抜(高大接続型入試)の他に、帰国生徒入試、社会人入試、外国人留学生入試、編入学試験、学士試験等多様な方法で実施している。</p> <p>(2) 愛知学院大学入学試験委員会規程に基づき、代表教授会の下に入学試験委員会が置かれている。学部長・教務主任が入試委員となり、全学の入試委員会において入学者選抜を行う体制となっている。</p> <p>(3) 入試ごとに入試委員会が開催され、そこで各受験者の点数を委員全員で確認し(各受験者の氏名は記載されていない)、公表した選抜方法に則った上、公正な選抜を実施している。</p> <p>(4) 学部・研究科共通して入学試験要項、入試ガイド、ホームページで入試方法や募集定員、出願資格、合否判定方法、前年度の合格者数や合格点を公表している。なお、各入試方式ごとの志願者数はホームページでリアルタイムに公表している。また、一般入試問題の模範解答については本学入試センターで公開しており、受験生は業務時間中であればいつでも閲覧することが可能となっている。学部・研究科共通して、特別な配慮を必要とする受験生に対しては、医療機器の試験室への持ち込みや別室受験等を認めるなど、可能な限りの対応している。</p>				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学_入試情報【ウェブ】				
大学案内【ウェブ】				
経営学部パンフレット				
経営学部ホームページ【ウェブ】				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	<p>入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。</p> <p><学士課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <p><修士課程、博士課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収容定員に対する在籍学生数比率 	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 教育研究機関に相応しい環境の確保のため、入学者数を入学定員に、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。収容定員については、入学者数が入学定員を大きく超える、もしくは下回ることはないよう、過年度の入学試験結果および入学者数を踏まえて、入学試験委員会において慎重に合否判定を行うことで管理をしている。経営学部における入学定員に対する入学者数比率は、2019年度:1.08/2020年度:1.06/2021年度:1.04/2022年度:1.04/2023年度:1.10となっており、最近5年間ににおいては入学定員の1.1倍を超える入学者を受け入れてはいない。</p>				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
定員管理状況(2019-2023年度)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 入試委員会では、全学の入試結果データに基づいて反省会が行われ、その結果が次年度の入試に反映されている。また、入試委員会からの報告を受けて、学部としては入試の結果を全教員に報告している。				
(2) 入学試験委員会の諮問組織として各学部より委任された教員で構成される「入試検討小委員会」が設置されており、その諮問内容について学部の会議で議論している。				
【根拠資料名】上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
令和5年度(2023年度)第9回経営学部会議事録				
令和5年度(2023年度)第11回経営学部会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準5」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針(分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)を適切に明示していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 経営学部では、本学で定めている「求める教員像及び教員組織の編制に関する方針」を踏まえ、学部固有の教員組織の編制方針を定め、適切に明示している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
6-1 経営 求める教員像及び教員組織の編制に関する方針				
6-2 経営 教員組織の編制方針(経営学部)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師又は助教）の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置（国際性、男女比等も含む） ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 大学設置基準第13条および同別表1において定められている必要専任教員数は、収容定員1165名（入学定員290名）に対して17名であり、2023年度の経営学部の専任教員は17名である。また、教授は11名であり、専任教員の半数を超えている（2023年5月1日現在）。				
(2) 学部の専任教員数、教授数を適切に維持するため、教員の退職時期や年齢構成等を踏まえたうえで、定年退職と同時に教員をすぐさま補充できるよう計画的な募集・採用・昇任を実施している。2023年度においては、3件の新規採用人事（2024年度採用）の公募を出した。				
(3) 次の諸点に鑑み、本学で定めている「求める教員像及び教員組織の編制に関する方針」ならびに経営学部で定めている教員組織の編制方針に基づき、適切に教員組織を編制しているといえる。第1に、専門教育科目における基礎科目のすべてにおいて、学部の審議を経て、当該科目を担当するのに相応しい専門的知識を備えた専任教員を1名以上配置している。第2に、専門応用科目等においても、学部の審議を経て、科目担当者として相応しい専門的知識を有する教員を配置することで、学位課程の目的に即した教員配置を達成できている。第3に、特定の教員に負担が偏ることのないよう、学部の審議を経て、コマ数負担の平準化が図られている。第4に、船員教員構成の点について、2023年5月現在における専任教員17人の構成は、年齢構成において60歳代が4人、50歳代が4人、40歳代が6人、30歳代が3人となっており、バランス良く配置されている。職位についても、教授11人、准教授2人、講師4人となっており、バランス良く配置されている。ただし、専任教員がすべて日本人であること、および、男女比率について、専任教員すべてが男性となっていることには留意が必要である。この状況は日本人であるか外国人であるか、また、男性であるか女性であるかを特に意識せず、あくまで科目担当者としての適正を判断し、採用を行ってきたためである。結果としてこのような現状に至っていることについては、課題点として意識しておかなければならない。第5に、研究科担当教員の資格については、「大学院経営学研究科 昇格規程」において明示されており、適切に運用されている。				
(4) 教養教育については、主として当該科目を担当するのに相応しい専門家と連携して提供している。そのほかの教養教育としては、国際交流センターが担当する海外語学研修に参加し所定のプログラムを修了すると単位認定が受けられる「海外事情科目」や、社会連携センターが担当する地域社会の問題解決に取り組む「地域連携学」などを設けており、学部として幅広い教育を提供している。				

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

6-1経営	求める教員像及び教員組織の編制に関する方針
6-3経営	大学設置基準【ウェブ】
6-4経営	入学定員
6-5経営	経営学部教員【ウェブ】
6-6経営	経営学部履修要項(p.111-112 学則別表4 専門教育科目の一覧)
6-7経営	経営学部履修要項(p.34 海外語学研修「海外事情」修了による単位認定)
6-8経営	経営学部履修要項(p.37-61 カリキュラム概要)
6-9経営	経営学部履修要項(p.64-65 地域連携コースの説明)
6-10経営	2023年度開講科目担当者、コマ表
6-11経営	海外事情科目(国際交流センターHP)【ウェブ】
6-12経営	大学院経営学研究科 昇格規程

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 職位ごとの昇任基準・手続については、経営学部昇格規程において定めている。また、募集・採用の基準・手続については、経営学部採用人事規程において定めている。なお、多様な人材を確保するため、あえて採用人事規程には職位ごとの基準を定めず、経営学部昇格規程を援用している。

(2) 昇任人事については、昇格規程に沿って公正・厳格に行っている。すなわち、学部会において審査委員3名を投票により選出した後、審査委員会からの審査結果の報告を待って、投票により昇任を決定している。2023年度には、1名の准教授承認につき、経営学部昇格規程に沿ったプロセスを経て、昇任を決定した。採用人事についても、採用人事規程に沿って公正かつ厳格に行っている。すなわち、原則として公募による募集を行い、学部会において審査委員3名を選出した後、審査委員会からの一次審査の結果報告を待って、まずは学部会において二次審査(模擬授業および面接)の対象者を3人に絞っている。そして次に、審査委員会からの二次審査の結果報告を待って、第1位の適格者について学部会で審議を行い、投票によって採用を決定している。2023年度には、「生産管理論」(ものづくりに関する科目)、「経営戦略」、「ベンチャービジネス論」の募集を行い、上述の募集と採用の手続きを経て、「ベンチャービジネス論」の専任教員の一名の採用を決定した。なお、「生産管理」と「経営戦略」については、審議の上、適格者がいないと判断されたため、2024年度にあらためて募集をすることとなった。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

6-13経営	経営学部昇格規定
6-14経営	経営学部採用人事規程
6-15経営	令和5年度第3回経営学部会議事録
6-16経営	令和5年度第4回経営学部会議事録
6-17経営	令和5年度第5回経営学部会議事録
6-18経営	令和5年度第8回経営学部会議事録
6-19経営	令和5年度第9回経営学部会議事録
6-20経営	「生産管理論」(ものづくりに関する科目)担当教員公募
6-21経営	「経営戦略」担当教員公募
6-22経営	「ベンチャー・ビジネス論」担当教員公募

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。 ・教育改善以外に研究の活性化や社会貢献等の教員に求められる諸活動について資質向上を図る取り組みの実施 ※学部及び大学院について、それぞれの内容に特化したFD活動を行っているか、併せてご確認ください。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)FDに関する学部会を定期的に開催し、教員の資質向上と教員組織の改善について、議論を行っている。また、すべての教員(非常勤を含む)に対し、少人数科目や一部の演習科目を除き、原則として毎学期に担当科目のすべてについて「学生による授業アンケート」を実施すること、また、アンケートの集計結果を踏まえたコメントを提出することを義務付けている。加えて、年に1度、他の教員の授業等を参観したうえで、参観後に教員間で授業の運営方法等について意見交換を行う「研究授業」を実施している。2023年度には、「ケーススタディを通じた科学的思考法の習得」という授業テーマで経営管理実習ⅠB(藤原一肇講師)の研究授業を実施した。				
(2)「学生による授業アンケート」の集計結果に対するリアクションを考えることで、授業の改善とともに、教員個人レベルでの資質向上を図っている。また、FDに関する学部会を定期的に開催し、研究授業や授業参観、ゼミナール大会の振り返りを行うことにより組織レベルでの教員の資質向上につなげている。2023年度には経営学部FD部会と2回の自己点検・自己評価部会を開催し、授業改善と教員の資質向上に関する議論を行った。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-23経営 2023年度学生授業アンケート実施について				
6-24経営 2022年度研究授業日程のお知らせ及び参観のお願い				
6-25経営 令和5年度 経営学部FD部会議事録				
6-26経営 令和5年度 第1回自己点検・自己評価部会議事録				
6-27経営 令和5年度 第2回自己点検・自己評価部会議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 学部会において、在職教員の退職時期、ゼミ募集停止時期、適正な年齢構成や教授数、コース別教員数の割合など、適切な根拠資料に基づきながら、教員組織の適切性を定期的に点検・評価している。				
(2) 経営学部では、ここ数年、定年退職する教員が相次いでおり、それに伴う補充人事の適切な計画・実行、ならびにカリキュラムの見直し作業が喫緊の課題となっているが、その課題に取り組むにあたって、上記の適切な根拠資料に基づく点検・評価の結果を活用している。2023年度においても、昇格人事の議論において、また、学部会、経営学部FD部会の採用人事に関する議論において、中長期的な視野から教員組織の適切性を保てるように検討が行われた。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-15経営 令和5年度第3回経営学部会議事録				
6-16経営 令和5年度第4回経営学部会議事録				
6-17経営 令和5年度第5回経営学部会議事録				
6-18経営 令和5年度第8回経営学部会議事録				
6-19経営 令和5年度第9回経営学部会議事録				

2. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。</p>	
点検・評価項目番号	長所・特色
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

<p>理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。</p>	
点検・評価項目番号	課題・問題点

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準6」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 経営学部では、建学の精神である「行学一体、報恩感謝」に加え、学部教育理念である「理論と実践」のもと新しい理論に基づく実践を重視し、企業経営を通じて社会に役立ち、自己実現できる人材の育成を目的としている。産学連携による実践型の教育研究を展開し、実際の企業と連携して継続的に商品開発を行っている。				
(2) 学部教育理念である「理論と実践」のもと理論に基づく実践を重視し、企業経営を通じて社会に役立ち、自己実現できる人材の育成を目的としている。「バーチャルカンパニーⅠA・ⅡA、ⅠB・ⅡB」では、産学連携による実践型の教育研究を展開し、学生による事業計画立案のもと、企業と連携して商品開発を行っている。ポッカサッポロ株式会社と協力して「きしめんチップス(レモン味)」を新商品として企画・デザインし、新規・既存商品を県内イベントおよび常設店舗、大手コンビニエンスストア等へ販路拡大を試みた。 経営学部油井ゼミでは、アントレプレナー教育、起業、製品開発等に取り組んでおり、「関西大学ビジネスプラン・コンペティション(KUBIC2023)」、「Sカレ(Student Innovation College)2023冬カン」等にて受賞するなど、外部コンテストにおいて優秀な成績をおさめている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
9-1経営	人材の育成・教育研究上の目的(経営学部)			
9-2経営	バーチャルカンパニー(ⅠA, ⅠB, ⅡA, ⅡB)のシラバス【ウェブ】			
9-3経営	ユースエンタープライズでの広報リリース(https://entreplanet.org/tradefair/list.html)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)「バーチャルカンパニー I A・II A、I B・II B」では、通常、半期に一度外部の指南役・審査委員をいれて、チーム毎のプロジェクトの内容・進捗度を多角的に評価を受け、その成果を毎年京都大学で行われるトレードフェアで発表している。そこで今年度も、「第23回ユースエンタープライズトレードフェア」に参加し、外部からの評価を得られる機会を設けた。				
(2)経営学部油井ゼミでは、製品開発、事業計画のプランをチームで練り上げ、外部団体主催のビジネスコンテスト(「相山女学園大学現代マネジメント学部 第11回ビジネスプラン・コンテスト」、「Sカレ(Student Innovation College)総合優勝戦」等)にエントリーし、実践的に活動することを通じて、外部評価を得られる機会を設けている。				

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名	
9-1経営	人材の育成・教育研究上の目的(経営学部)
9-2経営	バーチャルカンパニー(IA, IB, IIA, IIB)のシラバス【ウェブ】
9-5経営	Sカレ(Student Innovation College)総合優勝戦結果(https://unikle.jp/post-3328/)

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準9」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A